NIE実践報告

1．タイトル：☆続・知的バックグラウンドを育てるNIEの活動

2．学校名

宮崎県立小林高等学校

3．実践者名（代表者名）

濵砂誠

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語総合・36人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞を新聞に

7．目標(狙い)

①多くの新聞記事に触れ、記事を再構築し、わかりやすく表現することができたか。
②新聞記事を再度記事化することで、要約力と表現力の養成をはかる。

8．評価の視点

多くの新聞記事に触れ、記事を再構築し、わかりやすく表現することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞を新聞に」4時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①イメージを大切に意欲を引き出す時間（1時間）
新聞に親近感を抱かせるために、授業の最初に「新聞社の一員＝有能な記者」というイメージ化を試みる。
授業という言葉も使わず、これは「編集会議」であることを強調し、グループ学習を行わせる。
②新聞に触れ見識を深める時間（1~　2時間）
記事を作成するために、新聞記事を読むよう指示し、多くの記事から見識を深める時間とする。
③第3時：完成した記事を検討し相互に意見を深める時間（1時間）
完成した記事は、一人一人の量は少なくとも、班全体、さらにはクラス全体では、ある程度の量となる。
それを用いて、まずは班内で完成原稿としてよいか意見交換をさせ、最終の仕上げとする。
④第4時：完成した新聞を読み再度見識を深める時間（1時間）
クラス全員の完成を待って、それを縮小印刷し、A4両面印刷で3枚のプリントとする。これを全員配布。
各班は新聞記者からコメントとして記事を紹介。相互に時事問題に関する見識を深める機会とする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒たちは、この時間をきっかけにして、様々な記事があることを知り、「もっと新聞を読みたくなった」「とても楽しい時間だった」などの声を寄せてくれた。
実際、テレビ欄しか見なかったある生徒が、他の記事を読むようになったようだ。

12．成果と課題

図書室で、新聞記事を見ながらの作業が中心となった。このため教室の座学と異なり、新鮮さがあって、生徒の興味・関心を引き出しやすかったのがよかった。ただし、この授業だけで新聞に触れる習慣が付くわけではないため、これをきっかけに本当に新聞を活用してくれるよう、今後も働きかけたい。